

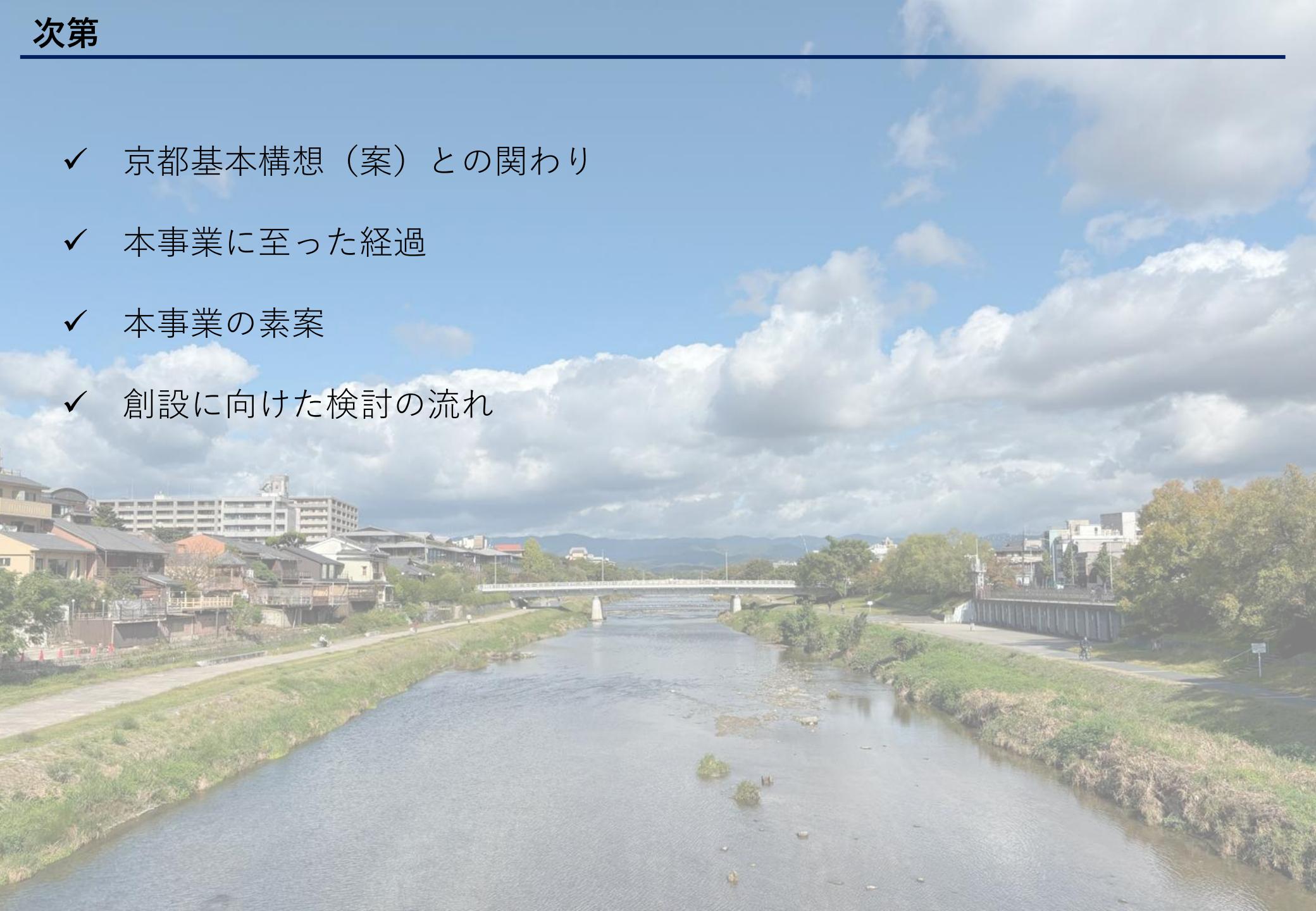


京都市 CITY OF KYOTO 生きものむすぶ・みんなのミュージアム



令和7年11月19日
京都市環境保全創造課

- ✓ 京都基本構想（案）との関わり
- ✓ 本事業に至った経過
- ✓ 本事業の素案
- ✓ 創設に向けた検討の流れ



目的・趣旨等



今後の長期的な京都の在り方を示す 市政の羅針盤

- まちが有する価値や強み、将来の見通し及びそれに対する備えを示すこと
- 行政、市民、事業者等の分野横断的な連携を創出し、課題解決につなげること
- 市民が自らまちを支える、育てる意識をさらに高め、これからも市民がまちづくりの担い手であり続けていくことが重要
- 行政は、市民や事業者、関係人口の活動をつなぎ、支えていく調整役としての役割を果たしていくことが必要

条文（抜粋）

✓ 序文

人間は、自然に生かされ、自然を生きている。

京都市は、信仰から美意識に至るまでのさまざまな思想を豊かな自然との関係の中で醸成してきた。悠久を体現する山々に囲まれ、清らかな水の恵みに満ち溢れたこのまちは、自然と人間の根源的な不可分性や一体性を思想的土壌としており、数多の文化がこの水脈と土壌とに根差している。

✓ 第二章「京都のかたち」第一節「悠久の自然との共生の中で」

このまちを生きた先人たちは、悠久を体現する山々を望みながら、鴨川・桂川・琵琶湖疏水から井戸水に至るまでの豊かな水の恵みのもと、人間と自然を不可分で一体的な存在と捉える自然観を思想的土壌として育んできた。

食、建築、景観、服飾から藝道に至るまでのさまざまな生活様式や文化様式が、四季折々の季節感を纏いながらこの自然観を宿して今まで根付いており、わたしたち京都市民と京都市にかかる人々の生に彩りを与えてくれている。

✓ 第四章「わたしたち京都市民がめざすまち」第一節「歴史と文化を介して人間性を恢復できるまち」

わたしたち京都市民は、先人たちから受け継いできた先義後利・不易流行・自利利他といった思想のもと、短期的な利益のみに囚れることなく、年月を賭として自らの技量を熟達させながら、市外の人々とも積極的に連携・協働し、また、最先端技術を活用していくことで、世界に類を見ない独自の価値を新たに創造し続けていく。

この際、このまちが醸成してきた節度と矜持のもと、時勢翻弄されることなく本物（ほんまもん）を見極める感性を研ぎ澄まし続け、これを後世と世界とに伝え遺のこしていく。

✓ 第二節「自然への畏敬と感謝の念を抱けるまち」

わたしたち京都市民は、豊かな自然の恵みこそがこのまちの歴史と文化の根底を成してきたことを忘れることなく、自然との共生を志向し続けていく。

また、このまちにおけるわたしたち京都市民の四季折々の生活の基盤に自然があること、ひいては、自然こそがわたくしたちの生の源泉であることを深く認識し、自然の中を生かされている命のひとつであるという謙虚さのもと、日々の生活と生業とを営んでいく。

本事業に至った経過～京都市生物多様性プランの進捗状況と課題から～

進捗状況

京都らしさを支える生きものの保全、再生などに取り組む団体等を認定する制度の拡充やきょうと生物多様性センターの設置、きょうと生物多様性パートナーシップ協定制度の創設等、活動を支援する体制整備や実践の機会の創出を推進

「積極的に活動している人」の掘起こしや後押しが進み、全体として「自然共生社会」の実現に向け、着実に進捗



地域生きもの探偵団（小学生向け）

表出してきた課題

興味のある人の認知は進んでいる一方、参加者が自然や生きものに興味がある層に偏っており、**学生や観光客をはじめとした幅広い方々に浸透するまでには至っていない**

また、「積極的に活動している人」を支援する体制を強化してきたが、「生物多様性を守るために取り組んでいる人」が5割と「自然を感じる機会がある人」の7割と大きく乖離があるだけでなく、減少傾向にあるなど、**あらゆる方々が行動する状態には至っていない**

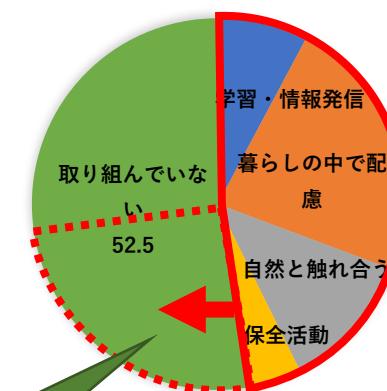


自然共生サイト（チマキザサ再生）認定証授与式

課題解決に向けて、ミュージアムを創設

学生や観光客等をはじめとした幅広い層への認知促進や、企業等の行動する状態に至っていない層へのきっかけの創出に向け、

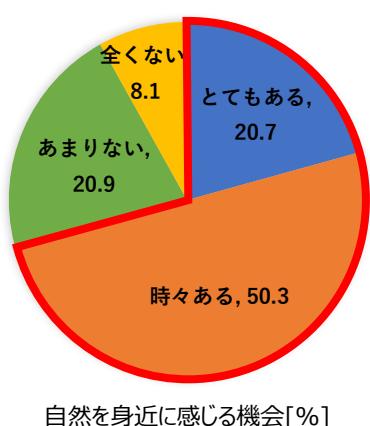
自然や生きものから得られる恩恵と京都の文化や暮らしとのつながりを見える化することで、京都の自然を感じ、愛着を深める人を増やす仕掛け「生きものむすぶ・みんなのミュージアム」を創設



ここで増やしたい！

生物多様性を守るために取り組んでいること[%]

出典：令和6年度京都市環境基本計画市民アンケート調査



「生きものむすぶ・みんなのミュージアム」の素案

情報の収集・発信の場

- 自然や生きものだけでなく、文化や暮らしに関する情報（和食や庭園など）をデジタルプラットフォームで幅広く募集・収集

【例】・自慢したい京都の文化や暮らし
・記憶の中にある水や食にまつわる京都での思い出、景色

- 投稿いただいた情報を、それを支える自然や生きものとのつながりが分かるように関連付けて整理・公開（見える化）することで、認知を促進し、新たな行動を喚起・交流の場へ誘導

つながりが明らかに
=京都の本物に気付く！

- 交流の場で得られた情報も集積し、更なる気付きの促進や交流の場からの流入を促す

和食や庭園、工藝などに関する情報で新たな層にアプローチ

環境分野だけではなく、和食×自然や庭園×生きものなど新たな観点・分野での交流による気付きの獲得や相乗効果を發揮

交流の場

- 京都の文化や暮らしについて見える化された情報を交流の場で活用し、共通の興味・課題等を持つ方を集め、交流する場を創出し、コミュニティ化
- 京都の文化や暮らしと自然や生きものとのつながりを知り、体験するイベントを企画し、交流を促進することで、認知を促進
- 認知の促進により京都の文化や暮らしへの愛着が深まり、それを支える自然や生きものを支える人への支援など、行動変容を促進
- 交流の場で創出した取組をデジタルプラットフォームで発信し、その情報に対して、参加者がコメントやリアクションをするなど、オンライン上でも交流を促進

新たな参加者 従前からの活動者



デジタルプラットフォーム

タケノコ
料理

竹林の
手入れ

関連付けて
整理・公開

【例】・こだわりの食材と環境保全型農業
・綺麗な鴨川と清掃活動



【例】・京料理の料理人と巡る、
こだわり食材探し
・こだわりの食材の買い支え

【例】・鴨川を保全する
団体の活動への
参加
・鴨川の水を知る
フィールドワークへの
参加

「生きものむすぶ・みんなのミュージアム」の素案

情報の収集・発信の場



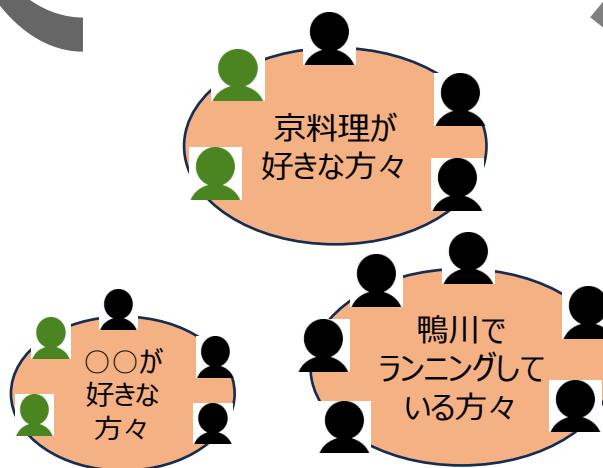
デジタルプラットフォーム

タケノコ
料理

竹林の
手入れ

関連付け
整理・公開

交流の場



交流の場、情報の収集・発信の場の活性化

①キュレーションチーム

- ・和食や工芸など、京都の文化や暮らしを体現する方たちで構成
- ・京都の文化や暮らしと自然や生きものとのつながりを独自に調査し、情報の収集・発信の場を先導

- ・利用者の手本として、交流の場の活性化を支援

②行動変容の支援

- ・以下制度を整備し、継続的な行動変容を支援
 - ①効果的な情報発信など、行動の活性化に係る知見を持つ方の紹介や相談会の実施
 - ②資金提供制度（投銭等）など、参加しやすい行動の提示
 - ③活動による自然や生きものの保全や、持続可能な利用への貢献度の明確化

ミュージアム創設に向けての検討課題

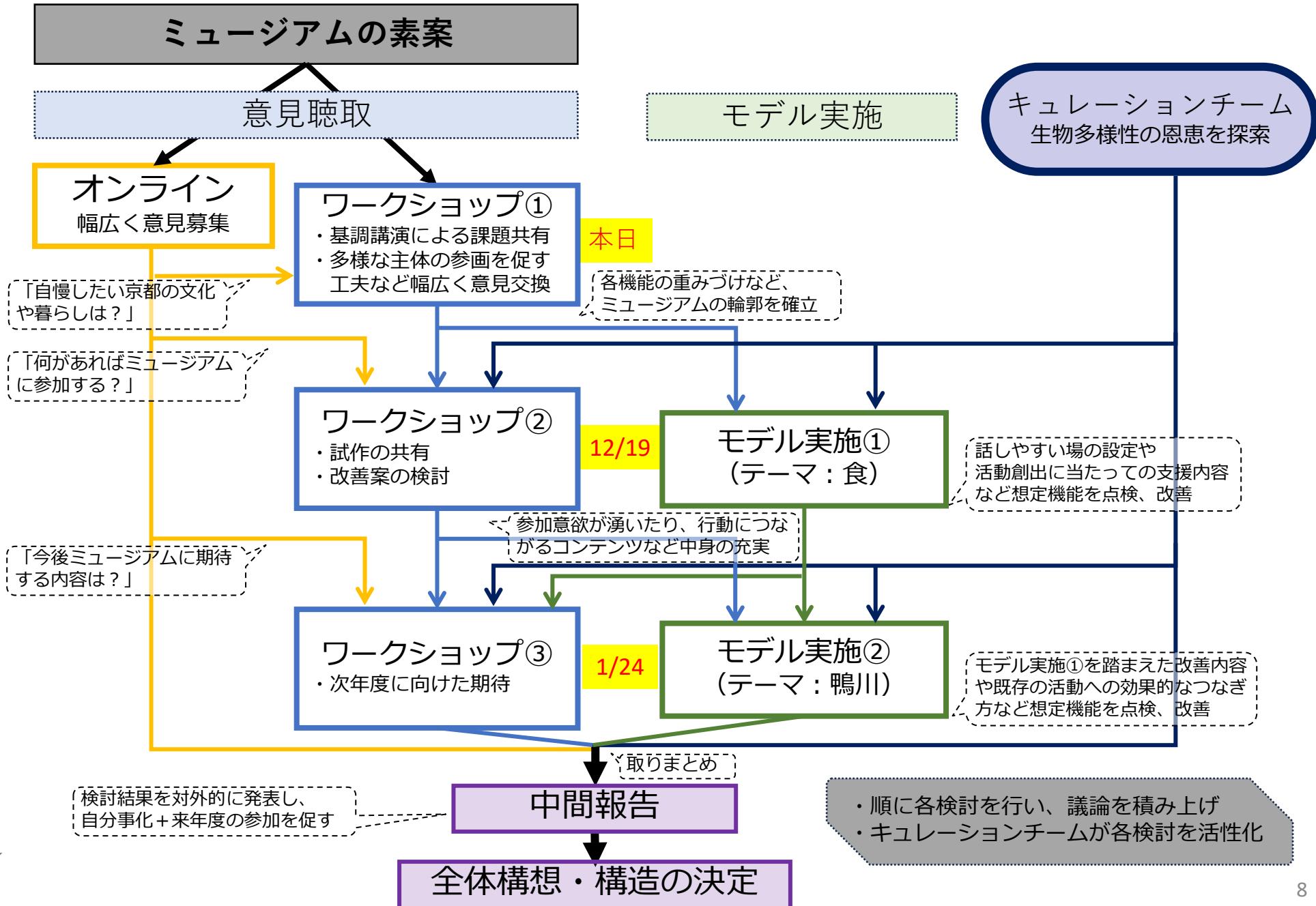
- ・文化や暮らしに関する情報の関連付け、自然や生きものとのつながりの見せ方
- ・これまで生物多様性ために行動できていない方を含め、交流の場への参加しやすさや場の活性化の方法などを検証し、効果的な仕掛けを構築することが必要

ミュージアムの活用を想定する方々をはじめ、多様な方々に参加いただき、素案の有用性を検討する

更なる気付きの促進や交流の場での情報も集積された情報から得られた情報の促進や交流の場からの流入を促す

「生きものむすぶ・みんなのミュージアム」の創設に向けた検討の流れ

検討の流れ



オンライン上での意見募集

1 目的・狙い

スマートフォン等を活用して、京都の文化や暮らしといった切り口から気軽に投稿・回答できるテーマで意見募集することで、幅広い意見を募るとともに、生きものに興味関心があまりな方々も含め、多様な主体がミュージアムに参加するきっかけとする

2 概要

他自治体で活用実績があるデジタルプラットフォーム「my groove」を本市仕様にカスタマイズし、本事業の概要や意見募集フォームを構築。コメントやリアクション機能などにより、利用者間のコミュニケーションを促進

「自慢したい京都の文化や暮らし」「記憶の中にある水や食にまつわる京都での思い出、景色」「最近まちなかで感じなくなった生きものの気配」など、テーマを設定して意見を聴取

イメージ（生きものむすぶ・みんなのミュージアム）

ワークショップ

1 目的・狙い

ミュージアムが多様な主体の活動に寄与するために必要な要素やアイデアなどについて、多様な方々と対面で意見交換を行うとともに、次年度以降もミュージアムに主体的に参画いただく機運を醸成



トークセッション（イメージ）

2 概要

①第1回（本日）

ミュージアムの目的や想定機能（総論）を紹介し、多様な主体の参画を促す呼び掛け方や頻繁に閲覧したくなるポータルサイトなどについて幅広く意見交換

②第2回（12月19日）

ミュージアムのコンテンツや機能の試作を紹介し、参加しやすさや使い勝手など改善案等を意見交換

③第3回（1月24日）

これまでの検討を踏まえたミュージアムの最終案を提示し、次年度に向けた期待やミュージアムを利用して実現したいことを意見交換



意見交換（イメージ）

本日は、よろしくお願ひします！

